

令和8年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【小音2】

【分科会】小学校音楽科

【実施日】令和8年9月30日（水）

担当大学名	徳島文理大学			
会 場	（会場名） 徳島文理大学高松駅キャンパス ムラサキキネンホール			
	（所在地） 高松市浜ノ町8-53			
講 師 （肩書・氏名）	徳島文理大学教授・若井健司			
対 象	小学校音楽科担当教員等	定員	参集 ○	20名
		（該当欄に○）	オンライン	

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	子どもの歌声づくり ～発声指導及び変声期への対応を中心に～		
研修内容の概要	自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能を子どもたちが身に付けていくためには、教員自身が発声の仕組みや変声期に関する見識を深め、適切な指導法や変声期児童への配慮の仕方を学ぶ必要があります。本研修では、発声面に焦点化し、発声の指導法、変声期への対応方法について理論と実践の両面からアプローチします。子どもの歌声づくりに関する実践的な課題を克服するために、ヴォイストレーニングのさまざまな方法を実践し、教え学び合うことを通して、授業改善に結び付く視点や方法を学びます。		
	[学習指導要領との関連] 小学校音楽科：「A表現」(1)「歌唱」ウ(イ)／〔共通事項〕 第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(4)ウ（変声期の指導）		
内容と方法	①理論や動画視聴を通して「発声の仕組み」を理解します。 ②音域の変化で声切り替わる換声点を認識するとともに、中声域を活用した指導法を学びます。 ③変声期について資料や動画等を用いて再確認します。 ④子どもの歌声づくりに効果的な発声練習（母音体操）を実践し、教え学び合う中で実践的な指導のヒントやアイディアを得ます。		
到達目標	①発声指導や変声期への対応に関する知識や技能を得たり生かしたりしながら、子どもの実態や発達段階に応じた指導を工夫することができる。 ②歌声づくりの大切さを実感し、授業改善に向けて指導法や学習内容に関して新たな視点や方法を考察することができる。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別：視学官）	参集／登壇
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	発声指導について 歌声の実例とその検証及び中声域の活用	参集
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～14:20	変声期への対応について 理論と実際	参集
	14:20～14:30	休憩	
	14:30～15:50	ヴォイストレーニング 各種体操・練習実践	参集
	15:50～16:00	休憩	
	16:00～16:30	グループディスカッション	グループワーク
	16:40～17:00	全体講評・振り返り	全体講評・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	簡単な体操ができるような服装		
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：無 ○受講する上での環境条件等：特になし		

令和8年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【小図2】

【分科会】小学校図画工作科

【実施日】令和8年10月1日（木）

担当大学名	京都市立芸術大学			
会 場	（会場名） 京都市立芸術大学			
	（所在地） 京都府京都市下京区下之町57-1			
講 師 （肩書・氏名）	美術学部 共通教育 教職担当 教授 飯田真人 美術学部 非常勤講師 國松万琴			
対 象	小学校図画工作科担当教員等	定員 （該当欄に○）	参集 ○ オンライン	20名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	材料から発想する～土を焼成して器の製作～			
研修内容の概要	我が国の文化や生活の中で陶磁器は茶道をはじめ食文化や生活環境のさまざまな場面でなくてはならないものです。一方で子供たちの生活環境が変化する中、子供たちが実際に陶磁器を使ったり鑑賞したりする機会は少なくなってきたように感じます。それゆえに図画工作科において器を焼成で製作することは造形的な見方・考え方を深めるだけではなく、図画工作を通して文化や生活の中の美しさを考えるきっかけの一つとなるのではと考えます。また、頭の中でイメージするだけではなく、材料を体で感じ取りながら「つくり、つくりかえ、つくる」ことで、思考を深めていく実践方法についての講義や実技も行います。			
	[学習指導要領との関連] 小学校図画工作科（各学年）：A表現(1)イ、(2)イ　B鑑賞(1)ア　〔共通事項〕(1)ア、イ			
内容と方法	午前の飯田の講義では、〔共通事項〕に着目し、材料や感覚と知識や技能の関係についてお話しします。 午後からは、飯田・國松から陶芸制作の基本について講義したのち、「たまづくり」の技法を用いて「茶碗」の製作を行い、陶芸の基本を実技を通して学びます。（なお作品については、焼成したのちに受講者の元へ郵送します。）			
到達目標	陶器の豊かな表現を知るとともに児童が自分の感覚や行為を通して形や色や形などの造形的な特徴を理解し、材料などに触れ、造形的な見方・考え方を働かせることができる表現や鑑賞の授業を行えるようにする。			
スケジュール		実施内容		実施方法
	9:00～9:30	受付		
	9:30～10:45	開講式・理論研修		参集／登壇
	10:45～11:00	休憩		
	11:00～12:00	講義「感覚を通して思考を深める」（飯田）		参集
	12:00～13:00	昼食		
	13:00～13:30	講義「陶芸の基本工程」（飯田・國松）		参集
	13:30～14:45	実技「たまづくりで茶碗製作」（飯田・國松）		参集
	14:45～15:00	休憩		
	15:00～16:30	実技「たまづくりで茶碗製作」（飯田・國松）		参集
	16:40～17:00	全体講評		全体講評・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了		
教材・持ち物等	特にありません。			
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題等はありません。 ○粘土を使用して制作活動を行いますので作業しやすい服装をご準備ください。（更衣室もあります） ○受講する上での環境条件等：昼食会場として学生食堂をご利用いただけますが、混雑している可能性があります。			

令和8年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【小図4】

【分科会】小学校図画工作科

【実施日】令和8年10月2日（金）

担当大学名	東京造形大学			
会 場	(会場名) 東京造形大学			
	(所在地) 〒192-0992 東京都八王子市宇津貫町1556			
講 師 (肩書・氏名)	岩瀬大地 教授 小林貴史 教授			
対 象	小学校図画工作科担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	12名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	自然物とのかかわりから学びの深まりへと 造形活動が育む資質・能力のつながり		
研修内容の概要	東京造形大学は、森の中の大学です。本研修では、はじめにその自然に触れることから図画工作科の活動における材料とのかかわりについて考えていきたいと思います。つくるための材料として自然物を対象化することだけではなく、そこに働きかけていくことからその中にある自然の姿に気づき、表現への発想や構想を豊かに広げ、学びの深まりへとつながる活動の手がかりに触れていきます。また、自らが手を加えたものをあらためて自然の場に置き鑑賞することから、自然の中に在る私が表現することの意味や価値を考えます。そして、これらのことから学びにおける資質・能力が目標と評価として個別に掲げられることにとどまらずに、活動を通して関連しながら働くことによって資質・能力そのものが高まることを確かめていきたいと思います。		
	[学習指導要領との関連] 小学校図画工作科：「A表現」(1)ア(2)ア 「B鑑賞」(1)ア 【共通事項】(1)ア、イ		
内容と方法	大学にある里山の中に入り、視覚的なとらえだけではなく身体を通して自然を感じ取ります。木の枝など自然物を採集し、それらを皮をはいたり、削ったりすることから発想を広げて、自然物がもつ造形的な美しさを顕在化していきます。そして、表現したものを自然の中に置くことによって環境を新たな視点でとらえ直すとともに、環境の一部として表現が生かされていることを確認していきます。また、実技研修での体験をもとに、図画工作科の授業における材料のものやこととしての意味を問い直していくことから、学びの深まりへとつながる資質・能力の働きについて話し合います。		
到達目標	図画工作科という教科の特質をもとに、自然物とのかかわりから表現し鑑賞することにある資質・能力の働きを確かめ、学びの深まりへとつながる授業づくりを考える。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別：教科調査官）	参集／登壇
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）・里山の散策 ・自然物の採集	参集
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～15:00	テーマ別実践研修（午後の部）・自然物を加工 ・鑑賞	参集
	15:00～15:10	休憩	各自作業
	15:10～15:30	自然物とのかかわりから学びが育む資質・能力について検討	グループワーク
	16:40～17:00	全体講評・振り返り	全体講評・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	エプロンや汚れてもよい服装、靴の準備		
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：無し ○受講する上での環境条件等：昼食には学食も利用できます。（学外近隣には飲食店がありませんので、ご注意ください。）		

令和8年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【小図5】

【分科会】小学校図画工作科

【実施日】令和8年10月2日（金）

担当大学名	常葉大学			
会 場	(会場名) 常葉大学(瀬名キャンパス) 3104教室			
	(所在地) 静岡県静岡市葵区瀬名1-22-1			
講 師 (肩書・氏名)	1部：常葉大学保育学部教授 三原信彦 2部：常葉大学教育学部教授 長橋秀樹			
対 象	小学校図画工作科担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	10名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容	
テーマ	「幼・少の連携についての理解と実践力の向上ー探究という視点からー」
研修内容の概要	1部：“遊びの概念” 幼児期の遊びについて 2部：五領域の理解幼児教育の概要を抑えながら、主に幼児の描画活動の発達を理解する。子どもの描画についての基本的理解を深める為のワークショップを体験する。
	[学習指導要領との関連]小学校図画工作科：「B鑑賞」（1）ア,〔共通事項〕ア・イ,「A表現」（1）イ,（2）イ, 「A表現」（1）ア （2）ア
内容と方法	1 部： ○図画工作科で低学年から高学年へと拡張されてきた「造形遊びをする活動」について、その内容を理解し、実践力を養う。 ○幼児教育の概要、幼少連携のためにも必要な幼児期についての理解を深め、小学校造形教育へと生かす。教育・保育要領解説（平成30年）幼保連携型こども園を基に「満3歳以上の園児の教育に関するねらい及び内容」（5領域の理解）、幼児の造形と「遊び」への考察、発達と幼児期の「遊び」の概念と環境より。 ○日本美術・絵画の鑑賞のしかた。伝統的な日本絵画に触れ、表現の性質、精神性、アイデンティティーについての考察を深める。 ○ワークショップ,墨による技法と表現、水墨画を描く～「墨から生まれる世界」、教科書にも記載されている、東洋の伝統的な技法と表現について理解を高める。 2 部： ○子どもの描画発達についての考察ー幼児から児童・生徒までの記録をパワーポイントで解説。 ○人物クロッキー：鉛筆を使用したワークショップー8つ切り画用紙を支持体に鉛筆で多様な描画の在り方を実践を通して、理解を深める。 ○「造形遊びをする活動」と「絵や立体工作に表す活動」の構造的理解ー小学校学習指導要領解説図画工作科編を基に「造形遊びをする活動」と「絵や立体工作に表す活動」双方の本質的な差異について考察すると共に、現行教科書に掲載されている具体的事例を参照しながら実践に即した理解を深める。本解説は「A表現」（1）発想や構想に関する項目ア及びイ、「A表現」（2）技能に関する項目ア及びイに対応している。それぞれの項目については、専門講師が担当するオムニバス形式であり、他の講師は実技補助により個別指導を行う。
到達目標	幼児教育における「遊び」の概念と子どもの描画についての認識を深め、指導者自身の描画活動における資質向上を目的としている。

	実施内容	実施方法
スケジュール	9:00～9:30 受付	
	9:30～10:45 開講式・理論研修（教科・科目別：教科調査官）	参集 3104教室／動画視聴
	10:45～11:00 休憩・会場移動	
	11:00～12:00 研修プログラム及びタイムテーブルの説明（10分）・幼児教育の概要	参集 3104教室
	12:00～13:00 昼食	
	13:00～14:00 現行教科書記載内容の実践と考察	参集 3104教室
	14:00～15:30 子どもの描画発達についての考察（レジュメ配布）	各自作業
	15:30～16:40 鉛筆を使用したワークショップ	グループワーク
	16:40～17:00 全体講評・振り返り	全体講評・振り返り
	17:00 アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	・通常の筆記用具等	
特記事項	○資料の配布方法：当日、紙媒体で配布 ○事前・事後課題の有無：無し ○受講する上での環境条件等：特になし	

令和8年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高音1】

【分科会】中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽）

【実施日】令和8年9月29日（火）

担当大学名	愛知県立芸術大学			
会 場	（会場名） 愛知県立芸術大学 室内楽ホール（集合場所）管理棟3階大会議室			
	（所在地） 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-114			
講 師 （肩書・氏名）	愛知県立芸術大学 音楽学部 教授 深町浩司 愛知県立芸術大学 美術学部 教授 森真弓			
対 象	中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽）担当教員等	定員 （該当欄に○）	参集 ○ オンライン	50名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容	
テーマ	楽器概念の解体と「パーカッションの技法」の再発見——聴覚と触覚の再統合による”共鳴”の場から
研修内容の概要	本学における打楽器専門研究の高度な知見が、あらゆる物体を響きの媒体として扱ってきた研究実践を踏まえ、現代の音楽教育で陥りがちな「整えられた音の制御」から脱却するアプローチを提示する。自然木の枝を打ち合わせ、手に伝わる振動（触覚）と耳に届く響き（聴覚）を再統合させる「パーカッションの技法」を体験的に学ぶ。これにより、正解の音を揃える合奏指導ではなく、互いの差異を聴き取り調律し合う、探究的なアンサンブル指導の工夫改善に資する視点を習得する。 [学習指導要領との関連] 中学校音楽科：第1学年、第2学年及び第3学年「A表現」(2)器楽ア、イ(イ)、ウ(ア)(イ)、(3)創作ア、イ(イ)、ウ、〔共通事項〕(1)ア、イ 高等学校芸術科：音楽Ⅰ、音楽Ⅱ「A表現」(2)器楽ア、イ(イ)、ウ(ア)(イ)(イ)、(3)創作ア、イ、ウ(ア)、〔共通事項〕(1)ア、イ 音楽Ⅲ「A表現」(2)器楽ア、イ(ア)、ウ、(3)創作ア、イ、ウ、〔共通事項〕(1)ア、イ
内容と方法	1) 打楽器領域の専門研究が提示する、対象の内部を診断・傾聴するための「パーカッションの技法」についての理論解説 2) 不揃いな「自然木の枝」を用い、敲打場所や角度、強弱によって変化する手応え（触覚）と響き（聴覚）を読み取る単独演習 3) 二人一組またはグループとなり、相手の発する「整っていない音」に対して、自身の身体と枝の響きを即興的に適応させ、調和（社会の再調律）を試みる対話的アンサンブルの実践 4) 既成の楽器が用意できない環境や、異なる背景をもつ他者との協働において、本技法をどのように授業設計や評価規準に落とし込むかについての協議
到達目標	1) パーカッションを楽器の名称ではなく、触覚と聴覚を再統合して対象を深く知覚する技法（メソッド）であると理解し、その指導法を習得する 2) 均質ではない自然素材（木の枝）の「手応え」を基に、生徒自身が観察・判断して音を選択していく「音づくり」の教材分析の視点を獲得 3) 互いの異なる響きを認め合いながら即興的に応答する活動を通じ、社会における差異に対して新たな価値として認める視点を獲得 4) 指導要領が掲げる、生活や社会の中の音や音楽、およびそれらを取りまく文化と豊かに関わる資質・能力を具体化する授業計画を立案できるようになる

	実施内容	実施方法
スケジュール	9:00～9:30	受付（管理棟 3 階大会議室）
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科調査官）
	10:45～11:00	休憩・会場移動
	11:00～12:00	楽器概念の解体と「パーカッションの技法」の理論（本学における打楽器専門研究の高度な知見が導き出す文明批評と音響生態学）
	12:00～13:00	昼食
	13:00～14:00	自然木の枝を用いた「打診」と「手応え」の身体的知覚（触覚と聴覚の再統合・自己の調律）
	14:00～15:30	非楽音による即興アンサンブルと「共鳴」の場の構築（他者受容と社会の再調律）
	15:30～16:40	グループワーク・振り返り：中学校・高等学校における授業展開および評価方法の検討
	16:40～17:00	調査官による全体講評、総括
	17:00	アンケート提出後、研修終了
教材・持ち物等	筆記用具、タブレット端末（授業案記録用）	
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：無 ○受講する上での環境条件等： ・定員数を可能な限り多く確保できるよう、学内の広い実習室やホールを調整し、本学の教育課程専門教員（教職担当）との密接な連携体制を整えて実施いたします ・昼食は生協購買部ならびに食堂が営業しておりますが、お昼の時間帯は混み合いますので、ご持参いただくことをお勧めいたします	

令和8年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高美3】
【分科会】中学校美術科・高等学校芸術科（美術） **【実施日】令和8年10月2日（金）**

担当大学名	常葉大学			
会 場	(会場名) 常葉大学静岡瀬名キャンパス			
	(所在地) 〒420-0911 静岡県静岡市葵区瀬名一丁目2 2 番 1 号			
講 師 (肩書・氏名)	造形学部准教授・磯崎えり奈			
対 象	中学校美術科，高等学校芸術科（美術）担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	15名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	空間表現－光と影の世界－			
研修内容の概要	光と影を用いて空間表現を行う。照明やプロジェクターなどの映写機器、布や紙、木材、日用品や道具などの材料と、身体表現などを組み合わせて光と影を活かした空間表現を行う。グループまたは個人でテーマやストーリーを考え、空間に物を配置したり、人の動きなどを使ったりして光と影で表現する。			
	[学習指導要領との関連] 中学校美術科：A表現(1)ア(ア)、(2)ア(ア)、B鑑賞(1)ア(ア)、〔共通事項〕(1)アイ 高等学校芸術科（美術）：A表現(1)ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、B鑑賞(1)ア(ア)、〔共通事項〕(1)アイ			
内容と方法	私たちの生きる世界を見つめ、思い浮かべた像や情景のイメージを、物体だけではなく影という形のないものに注目し作品を制作する。照明やプロジェクターなどの映写機器と、布や紙、木材などの自然素材、日用品や道具など様々な材料と、自身の体を使った身体表現を組み合わせて光と影を活かした空間表現を行う。グループまたは個人でテーマやストーリーを設定し、それに合わせた表現を行う。大学内にあるギャラリー使用し、広い空間の中で、光と影を用いてどのように表現するのか、どのような可能性があるのか試行錯誤しながら制作する。授業の最後にはグループごとに発表し鑑賞する。			
到達目標	光と影の現象と効果を理解し、表現に繋げることができる。 様々な材料、または身体を使い工夫しながら制作し表現の幅を広げる。 思い浮かべた像や情景のイメージを、光と影を用いて工夫し制作することで創造力を養う。			
スケジュール		実施内容		実施方法
	9:00～9:30	受付		3号館1階3104教室
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別）		参集／動画視聴
	10:45～11:00	休憩・会場移動		2号館2階常葉ギャラリーA
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）光と影の特徴を捉えるための実践		内容説明
	12:00～13:00	昼食		
	13:00～14:00	テーマ別実践研修（午後の部）テーマやストーリーを決定		実験と工夫
	14:00～15:50	制作		グループワーク
	15:50～16:40	グループごとに発表を行う		発表
	16:40～17:00	振り返り		全体講評・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了		
教材・持ち物等	身体表現を行うので、動きやすい服装が望ましい。			
特記事項	○資料の配布方法：無し ○事前・事後課題の有無：無し ○受講する上での環境条件等：薄暗いギャラリースペースでの活動となる			

令和8年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中美高二】
【分科会】 中学校美術科・高等学校芸術科（工芸） **【実施日】 令和8年9月28日（月）**

担当大学名	金沢美術工芸大学			
会 場	（会場名） 金沢美術工芸大学			
	（所在地） 石川県金沢市小立野2丁目40番1号			
講 師 （肩書・氏名）	足立 真実（金沢美術工芸大学・教授）（進行：桑村 佐和子（金沢美術工芸大学・教授））			
対 象	中学校美術科，高等学校芸術科（工芸）担当教員等	定員 （該当欄に○）	参集 ○ オンライン	15名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	天然染料による染色 ―先人の知恵と自然から学ぶ授業の展開― ☒		
研修内容の概要	本研修では中学校における「美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う」また、高等学校芸術科工芸の「主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う」ことに重点を置いた授業展開について考える。天然染料に触れ、先人たちが培った知恵を学ぶことにより、現代のサステナブルな様式への展開を考えると共に、伝統的な美の感覚を養う授業を検討する。		
	[学習指導要領との関連] 中学校美術科：A表現(1)イ(ウ)(2)ア(ア)(イ) B鑑賞 (1) ア(イ)(ア)(イ) 【共通事項】 (1) アイ 高等学校芸術科（工芸）：A表現(1)ア(ア)(イ)(イ)(ア)(イ)(2)ア(ア)(イ)(ア)(イ)B鑑賞 (1)ア(ア)(イ)(ア)(イ)【共通事項】(1)アイ		
内容と方法	天然染料による染色について大学資料等を用いつつ様々な植物の色の違いや素材の特徴を学び、さらに実際に染める体験をすることで自然との関わりに意識をもち、中学校美術・高等学校芸術（工芸）の授業にどのように活かすかを考える。 ①レクチャーと実際に染められた色のサンプルを見ることにより、天然染料の歴史的背景、技法の特徴を学ぶ。 ②天然染料による染色法を体験する。 ③中学校美術、高等学校芸術（工芸）での授業展開についてアイデアを出し合い、今回の体験の振り返りを行う。		
到達目標	天然染料による染色について参加者（教員）自身が基本的技法を体験し、古代からの知恵を学ぶことにより、自然の色の美しさ・畏敬の意識を深めると共に、先人の教えを取り入れた現代においての活用を考える。 具体的な生徒像を想定して、それぞれの学校の実態に合わせた題材設定を考える。 伝統工芸に対して生徒に造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ねさせることにより、生徒が伝統文化に幅広く関わることに資することを再認識する。		
スケジュール	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別：教科調査官）	参集／動画視聴
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	演習：天然染料による染色の体験①	参集
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～14:00	講義：天然染料についての講義	参集
	14:00～16:00	演習：天然染料による染色の体験②	各自作業
	16:00～16:40	演習：授業への応用の可能性	グループワーク
	16:40～17:00	全体講評・振り返り	参集
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	当日の服装は袖に引っかかりが無いもの、履物はすべらないもの（ハイヒールや厚底はNG）をご用意ください。 その他、服装・持ち物等について、必要に応じて参加者に追加連絡をいたします。		
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：無 ○受講する上での環境条件等：無		

令和8年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【高書1】

【分科会】高等学校芸術科（書道） **【実施日】令和8年10月2日（金）**

担当大学名	東京学芸大学			
会 場	（会場名） 東京学芸大学			
	（所在地） 東京都小金井市貫井北町4-1-1			
講 師 （肩書・氏名）	東京学芸大学教授 加藤泰弘 日本芸術院会員 高木聖雨 愛知県立愛知商業高等学校教諭 加藤眞太郎			
対 象	高等学校芸術科（書道）担当教員等	定員 （該当欄に○）	参集 ○ オンライン	40名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	高等学校芸術科書道における「漢字の書」の創作指導の工夫 – 作品の構想と表現の工夫の視点 –		
研修内容の概要	現職教員の講師による教育現場における課題の発表と研修会参加者による協議、書壇で活躍している講師による「漢字の書」の創作についての実技指導と研修会参加者の実技演習、教科調査官による指導・講評を通して、現行学習指導要領の趣旨に基づき、「漢字の書」の創作の指導力の向上を図るとともに、「漢字の書」の創作の授業での指導の工夫について理解を深める。		
	[学習指導要領との関連] 高等学校芸術科（書道）： 主として A 表現・・・・・・（2）漢字の書 ア（ア）（イ）（ウ）、イ（ア）（イ）、ウ（ア）（イ） B 鑑賞・・・・・・（1）ア（ア）（イ）、イ（ア）（イ）（ウ） [共通事項]・・・・（1）ア、イ		
内容と方法	・教科調査官による理論研修（高等学校芸術科書道に係る行政面からの解説） ・現職教員による授業研究発表（「書道Ⅰ」「漢字の書」の創作指導）と研修会参加者による協議 ・書壇で活躍している講師による「漢字の書」の創作の実技指導と解説、研修会参加者の実技演習 ・教科調査官による指導・助言		
到達目標	・学習指導要領の趣旨と高等学校芸術科書道の指導内容、授業改善の視点について理解を深める。 ・「漢字の書」の創作における作品の構想と表現の工夫について、実技演習を通して理解を深める。 ・学習指導要領の趣旨を踏まえ、「漢字の書」の創作指導の授業並びに指導を工夫できる指導力を身に付けるようにする。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式、理論研修（教科・科目別：教科調査官）	参集／登壇
	10:45～11:00	休憩	
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）	参集（研究発表・協議）
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～14:00	テーマ別実践研修（午後の部①）	参集（実演）
	14:00～14:15	休憩	
	14:15～16:30	テーマ別実践研修（午後の部②）	参集（演習・実技指導）
	16:30～17:00	全体講評・振り返り（教科調査官）	参集（全体講評）
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	書道用具（下記資料とともに提示）、『高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）解説 芸術編』（書道記載部分）		
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：有 ○受講する上での環境条件等：無		